



協立会場

講演では、職員の健康が保たれ、意見を話しても大丈夫と感じられ

二月十七日(金) 十五時～十六時半、十八日(土) 十三時半～十五時、二十一日(火) 十五時～十六時半と三回開催し、弘前、八戸、青森の各研修室・会議室に集まる研修会となりました。事前課題に取り組んでから参加することで研修時間を短縮し、中継開催することで会場人数を制限しつつ、グループワークや各地域からの報告交流ができました。参加者は三日間で計二百七十二人となりました。



八戸会場



健生会場

(心理的安全性)、ハラスメントがない、「健康いきいき職場」となるために職場の人たちと互いに影響しながら職責者は出来るところから取り組んでほしい、職員が健康であるためには、首尾一貫感覚(この世にはそれなりの秩序があると信じられる力)が大切であり、職場では職責者が「現状や今後について」、「信頼を寄せていること」、「行動することの意味」を伝えると、職員の「わかる感」「できる感」「やるぞ感」(首尾一貫感覚)につながると話されました。職責者自身の健康、心理的安

あつた、ぜひ活かしたいと感想が寄せられました。また、グループワークが出来たことで直接的な交流はやっぱり良い、報告される取り組みの熱量が感じられ、講演の内容を深めることにつながり自分のものになった等の感想が寄せられました。中継で行うことの大変さもありましたが、職場運営に活かせるという感想が多くあり励まされました。また研修を準備しながら自身も学んでいきたいと思っています。

(県連教育委員会事務局長 小形てる美)

全日本民医連 職員の健康を守る学習動画
講演 「民医連の職場における職責者の役割」メンタルヘルスの視点から」
講師 北海道勤医協中央病院 精神科・リエゾン科の田村修医師

2022年度 青森民医連 職場管理者・職場管理補佐研修



ファルマ会場

介護福祉士研修交流集会

お互いを尊重しあえる職場づくりをめざして

～今こそ手をとりあって～

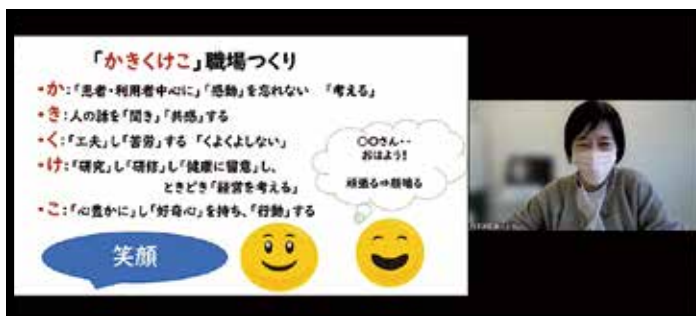
一月十四日(土)オンラインにて開催し、青森・弘前・八戸の介護福祉士四十人が参加しました。講師には熊本県民医連社会医療法人芳和会看護介護部長川上和美氏を招き、心理的安全性を高める職場づくりについて講義いただきました。



今年度で第五回となる介護福祉士研修交流集会は、心理的安全性を高める職場づくりをテーマに、コロナ禍の今だからこそ介護の原点に戻り、人間が人間を介護する事の意味と価値を生み出し続けられる組織、そして組織の中で大切なことは「感情」「一人一人の存在」「コミュニケーション」であると解りやすく講義いただきました。さらに孤立していた水俣病患者(水俣事件)を歴史から学ぶ事と題して、水俣病患者と共に健康で生きる権利を守り続けて来た医療集団、熊本民医連の存在意義がそこにあると言う事を教えて頂きました。

講義後のグループワークでは「新人・中途採用者が業務を円滑に進めるために職場で出来ることは何か」をテーマに話し合いました。コミュニケーションを図り、お互いが情報交換し、ミスを報告し合える関係性づくりをして行けたらと言う意見が多く聞かれました。参加者のアンケートでは「大変有効に話し合う事が出来た」という回答が八十八%あり、多くの参加者にとっても学びや意義のある意見交流となりました。

(看護小規模多機能型ナースングホームたち 石郷岡リカ)



～民医連（綱領）を学び、理解を深め実践し、後輩へ語れるセラピストへ！～

青森県連リハビリ技術者委員会『民医連セラピスト 中堅教育プログラム』

これまで参加した全日本民医連リハビリ技術者委員会主催の会議・研修において、2000年あたりから全国的にリハビリ技師の大量採用と養成校が急激に増加し、それに伴ってリハビリ技師育成が追いつかず全国的に課題となっていることが触れられておりました。

青森県連においてもリハビリ技師は200名を超え、若手だけではなく中堅職員も増加し、職員育成は重要な課題となっています。中堅職員は日常業務・職場運営・後輩育成・民医連運動の要であり、事業所や組織を運営していく上で中核を担い、次の幹部・リーダー候補となる重要なポジションです。しかし、その重要な中堅職員育成の取り組みは各事業所によって開きや実施できていないのが現状でした。民医連における活動や民医連らし

いセラピストの実践を行う基盤として『民医連綱領』がありますが、各事業所内で行う民医連教育の中では深くまで掘り下げることはありませんでした。

そこで民医連職員として、民医連を理解し、民医連職員としての姿勢・理念を持って様々な場面や地域で活躍できる職員を育成すべくその基盤となる『民医連綱領』を深く理解する機会として中堅スタッフを対象とした教育プログラムを企画し2021年度から実施しています。内容は「民医連綱領学習ブックレット」の読み合わせ、グループワークでの共有・意見交換、先輩職員からの講演を企画しています。初めての試みであり、まだ手探り感がありますが、一歩ずつ目標に近づけるよう取り組んでいきます。(あおもり協立病院 野呂大樹)

2月18日(土)・19(日)の2日間に渡り、全日本民医連 第45期第2回評議員会が開催されました。評議員からは文書発言を含め61本の発言があり、方針案に沿って豊かな議論が交わされました。初日の学習企画では、日本障害者協議会代表 藤井 克徳氏による「優生保護法は終わっても優生保護法問題は終わっていない」と題した講演が行われ、優生思想による人工妊娠中絶手術等の実施によりおびただしい数の被害者を生み出してしまった歴史的経過に触れながら、その反省に立ち、障害者権利条約を全面的に履行していく必要があること、そしてその実現のため、民医連に対して大きな期待が寄せられました。

2024年度から実施される医師の働き方改革への対応についても活発な討議が行われ、そもそも医療費と医師数を抑制することをベースとして医師の働き方を是正していくという政府の方針は、地域医療の継続と経営課題からも大きな矛盾を抱えており、改めて医師増員の大運動を展開していく必要があるとの提言がなされました。

第45期第2回評議員会方針案は全会一致で承認され、全国の各県連が評議員会方針に団結し、平和と人権のアンテナを更に高く掲げ、地域で奮闘していくことを確認し終了しました。

(全日本民医連評議員 今淳一)

第16回 全日本民医連学術・ 運動交流集会

演題募集中

3月31日(金) 12:00 締切

詳しくは全日本民医連ホームページを参照してください
<https://www.min-iren.gr.jp/>



全日本民医連薬局法人経営学習会

「薬局法人の経営の見方」

講師 協働公認会計士 田中淑寛

二月四日(土) オンライン開催となり、トップ幹部を中心に百二十六名の参加がありました。今回のような経営課題に特化した学習会は珍しく、背景としてこの間の薬局法人の経営が急激に悪化したことが上げられます。二〇一八年大型薬価改定を皮切りに二〇一九年消費税増税、二〇二〇年新型コロナウイルス発生による処方箋減少、二〇二一年毎年薬価改定等が立て続けに実施されたことにより赤字法人が大幅に増加しました。特に二〇二〇年以降はコロナ禍により外来患者が大幅に減少したにもかかわらず国は薬価改定を強行し、更に薬局法人に対するコロナ補助金が極めて少額だったことが損益および財務状況が悪化した要因となりました。このような状況を踏まえた上

で、講師の田中先生より薬局経営を存続させるためには中長期的な視点と科学的な経営分析をすること、県連や連帯する医科法人と討議を図ることが指摘されました。また、財務強化を目的に薬局版統一会計基準十二項目の改定について提案がありました。後半は分散会となり各法人の経営課題や今後の経営のあり方について意見交換しました。厳しいながらも先進的な取り組みを進めている法人もあり参考になりました。全体を通じてあらためて中長期経営計画に基づく必要利益の確保と全職員参加経営の実践、県連や経営委員会で認識を共有することが重要だと感じました。

(株式会社ファルマ専務取締役 崎野修)



医学対大運動 ～対面・対話から 生きたつながりづくりへと～

各法人・事業所の職員17名にご協力いただき、2月18日（土）3会場で奨学金説明会、2月24日～2月26日の3日間で医学部受験者への入試宣伝を行いました。2月中に複数名から奨学金の問い合わせがあり、すでに4名の申請希望が出されています。入試宣伝では奨学金資料などの宣伝物配布と対話アンケートを行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大により入試宣伝に規制のかかる状況が2年近く続きましたが、今年の取り組みは「一人でも多くの受験生と対面でのつながりをつくる」ことを大きな目標にしました。

宣伝物が受験生の目に触れる機会を増やすため、新青森駅・弘前駅での奨学金ポスターの掲示、受験会場近隣

の店舗や宿泊施設への宣伝物設置・ポスター掲示を行いました。2月18日（土）の奨学金説明会は各法人幹部から青森民医連や各事業所の医療活動を伝える機会となりました。そのことが共感を呼び、2月中に4名の医学部合格者から奨学金の申請希望が出されました。「民医連で目指すものが自身の目指す医師像と合致していると思



い、今回奨学生となることに決めました」と申請の思いが語られました。入試宣伝では、3日間の取り組みで計296部の資料配布と151件の対話アンケートを行うことができました。資料配布数は昨年度より144部増加しました。アンケートでは合格者向けの企画や青森民医連の医療体験に強い興味を示してくれました。また、2月25日（土）受験生相談会には20名の受験生が参加し、医学生の的確な面接対策アドバイスが大変喜ばれました。

医学対大運動のつながりを生かし、青森民医連の後継者づくりを前進させていきます。

（青森民医連 葛西美冴）

全日本民医連

大軍拡阻止、

改憲許さない学習・

活動交流総決起集会

二月四日の午後に一橋大学名誉教授の渡辺治先生を講師に迎えて、全日本民医連主催の学習会がWEB開催され、全国から約二百七十名の参加がありました。初めに情勢について、反撃能力（敵基地攻撃能力）の保有や来年度以降五年間の防衛費を四十三兆円とする方針、岸田政権は九条改憲に前のめりになって、大軍拡路線、戦争する国づくりを進めていることの報告がありました。

この学習会では、今こそ平和憲法の意義と、その憲法を守り生かす世論を大きくすること、自民党改憲案に反対し、共同組織とともに憲法を守り生かすとりくみを、地域ぐるみで進める意思統一を行うことができました。今後予定される統一地方選挙とも連動しながら、とりくみを進めていくことが重要であると感じました。（青森民医連 次長 對馬康文）

2022年度「冬の高校生医師体験」

高校生が病院見学・縫合体験・医師の講演を体験！



青森会場は磯島寿人医師が「困っている患者の力になるためには？」をテーマに講演、患者の不安は病気だけではなくお金（治療費等）の心配も大きいこと、磯島医師や

弘前会場は伊藤真弘医師の案内で病棟・手術室などを見学、縫合体験を石山美咲医師、和田尊行医師、高橋重実医師、佐々木有貴医師の指導で行いました。

八戸会場は原徹医師が「患者に寄り添う医療」をテーマに講演、医師が患者の気持ちや家族の思い、患者を取り巻く環境にまで気を配りながら診療している事を学びました。また工藤珠星医師、佐々木有貴医師と懇談しました。

冬の医師体験は八戸（オンライン）12月24日（土）八名、弘前12月28日（水）十一名・1月5日（木）十名、青森1月7日（土）二十名で開催し、全体合計で四十八名参加しました。



スタッフが保険制度を駆使して患者の希望を叶える姿を学びました。縫合体験を木元建医師、神崎風弥医師の指導で行いました。

高校生からは「医師は最善の治療を行うと同時に、患者それぞれの事情に心を寄せることが重要だと気付いた」「研修医の話を直接聞いたこと、励ましの言葉が嬉しかったです」「磯島先生の患者さんを救おうとする熱意、諦めない気持ちを強く感じました」との感想が寄せられました。

今後も医師を目指す高校生との関りを深め青森民医連の医学生対策・医師養成の成果に繋がっていきたいと思います。
（青森民医連 伊藤しのぶ）

毒ガス製造のために地図から消された大久野島で戦争の加害を知る

— 反核医師の会・学生部会主催の広島FW（フィールドワーク）に医学生が参加 —



被爆者と医師の講演を聞く医学生

1月7日（土）～8日（日）に反核医師の会・学生部会主催の広島FWがおこなわれ、全国から医師や医学生など50人が集まりました。青森民医連からは医学生の奨学生2人が参加しました。

参加者は事前にFWをおこなう大久野島の歴史について学習しました。第二次世界大戦中に国際的に違法となった毒ガスを作るために日本地図から消されたこと、大久野島で作られた毒ガスが中国の侵略に使われたことなどを学びました。



大久野島の遺構を見学する医学生

1日目の大久野島FWでは「大久野島から平和と環境を考える会」の山内正之さんがガイドをおこないました。山内さんは当時の大久野島でおきたことについて「毒ガスを作らされている人が誤って負傷しても『治療方法があれば兵器ではない』と上司に言われ、治療してもらえなかった」と語りました。そして大久野島でおきた歴史的な事実を残すために当事者たちが資料館や慰霊碑を作ったことを説明。最後に山内さんは大久野島のような問題は現代社会にもあることを指摘して「現地の人に詳しいことを教えないで毒ガス工場をつくるなど、大久野島と原発は同じ構図だ」と訴えていました。

2日目は被爆者の小方澄子さんと被ばく医療をおこなってきた広島民医連の藤原秀文医師の講話と、原爆ドームと広島平和記念資料館を見学しました。

学生からは「戦争の加害の事実を知った。強者によって弱者がコントロールされる構図が原発問題と同じだと思った」「第二次世界大戦で毒ガスを使用したのが日本だけだったと聞いて驚いた」「被爆者や医師の話を聞いて、初めて原爆が落とされたとき、当時の人々は被害についての理解がなく、治療が十分にされないまま経過していったことが生々しく伝わった」などの感想が出されました。
（青森民医連 矢作史考）

全日本民医連 第45期社保委員長会議

二月十五日にオンラインで全日本民医連第四十五期社保委員長学習交流会が開催されました。全国から百六十一名が参加し、青森民医連からは五名が参加しました。神戸大学の井口克郎准教授を講師に迎え、全世代型社会保障構築会議報告書についてご講演いただきました。

全世代型社会保障構築会議報告書では社会保障について全ての世代で支えあう仕組みの構築の必要性を強調しています。が、本質は一般労働者や失業者、高齢者に負担を強い、富裕層や大企業の負担を減らすものであるとされています。社会保障は所得の再分配をすることで貧富の差を緩和し、社会的弱者を作らないようにするのが目的です。本来税金や社会保障など多く負担すべき富裕層や大企業が現政権の支持母体であるために、彼らの負担が少なくなるような政策が進められようとしています。現に一般労働者等の負担増を推し進めても、富裕層や大企業に直結する法人税を増やすことには言及していません。しかし、アメリカの要請により軍事費を二倍にすることが決定され、ついに法人税の増税が検討されました。これらのことで、いかに現政権が富裕層や大企業、ひいてはアメリカの言いなりで、国民のいのちやくらしを軽視していることがわかります。

講演を受けて、政策を変えるために私たちが出来ることは、まずは選挙に行くことだと実感しました。また同時に国や自治体に訴えを届けるために、社保運動や署名の取組も重要であるとも思いました。（一般社団法人あおもり健康企画 玉熊律郎）

2022年度

看護奨学生会議報告

津軽保健生活協同組合看護学生委員が企画・運営した奨学生会議

～映画鑑賞から看護師と一緒に理解を深めよう「戦争と看護」～

人材育成の視点から、定期的に看護奨学生会議をおこなっています。昨年11月5日(土)は、映画を題材に看護師と看護学生が「戦争と看護」への理解深めるための奨学生会議を法人看護学生委員が企画・運営しました。看護学生に対して入職前教育として看護師が関わることや看護体験以外での看護師との交流の機会となりましたのでご報告いたします。

この日の奨学生会議は、法人看護学生委員3名と看護奨学生3名が参加しました。内容は、映画「ジョニーは戦場について」を鑑賞し、戦争や看護についてともに考えるという企画でした。戦争に関する内容ですが、看護を学ぶ教材として看護学校でも鑑賞することがある映画なので戦争と看護を考えるためにとても適した題材でした。

看護学生委員から題材を選んだ理由や第一次世界大戦のこと、鑑賞のポイント等を説明してから、全員で鑑賞しました。見終わった直後は少し重たい空気感やため息もありましたが、本当に見応えのあるものでした。その後職員同士・看護学生同士で感想をまとめてから一緒に話し合いをしました。学生からは「理解出来ない所や少し怖かったけど感動した。」「主人公は戦争がなければ恋人と幸せに暮らしていたかもしれないと思うと胸が痛くなった。」「映画の新人看護師が優しく丁寧に関わっているのが素敵だなと思った。」「看護師さんとの話し合いから観察は大切だと改めて感じた。」「戦争が人生・生活に大きく影響を与えることや戦争で傷を負った人の声なき声に耳を傾ける看護師の姿が「患者の立場にたつ」民医連看護に通じるものとして深めることができました。コロナ禍で看護体験開催もままならない中、現場の看護師が学習を企画・運営することによって、看護学生に伝えたい民医連看護をとともに学び・交流しあえる場所がまたひとつ増えるきっかけとなりました。」(津軽保健生協 看対 阿保祥子)



青年委員会 雪かきボランティア活動!

青年パワーが炸裂!!
「デイさ行くの楽になるじゃ」と喜びの声

二月二十五日(土) 青年委員会の雪かき隊ボランティア活動が実施され、弘前から十二名、青森から五名の青年(一部元青年)が参加しました。

思いがけず雪が少なくて実施できない年があったと思っただけそのままだけにコロナ禍に突入したため、今回は実に四年ぶりの開催となりました。

青森・弘前それぞれの居宅に一件ずつ訪問宅候補をお願いしていたのですが、嬉しいことに弘前地区で元青年委員の職員が呼びかけてくださり、弘前は二隊編成できることになりました。雪かき隊皆勤賞の参加者は、「久しぶりで腕がなる〜!」と、慣れた動きで途中から半袖になり、大活躍してくれました。利用者さんが排雪後の玄関先を見て、「これだけデイクの車来た時大したいいなあ。」と喜んで下さいました。認知症の利用者さんも、雪かきしてくれる若者たちに「コーヒー出せばいいべが。」と介護スタッフに笑顔で話していたそうです。

参加者からは「初めてでしたがとても楽しかった。」「大変そうなことでもみんなやれば意外とすんなりできることを学ぶ機会になった。」「という感想が寄せられました。こうして一緒に雪かきしたメンバーが、横のつながりを活かして仕事や民医連運動をしてくれると期待が膨らみます。(青森民医連 相馬志保)



県連事務局

人事往来

2年間大変お世話になりました。青森民医連内の多くの皆様の支援や協力を頂き任務を遂行できた事にただただ感謝の気持ちで一杯です。多くの事を学び、改めて民医連職員としての役割任務の重さを痛感いたしました。今後、得た事を人材育成や民医連看護の継承と発展に微力ですが努めてまいります。ありがとうございました。



ごとう まゆみ
後藤麻由美

(青森民医連青森事務所
⇒住宅型有料老人ホームなのはな)

約4年間県連事務局員として、教育委員会、事務委員会、青年委員会(青年ジャンボリー、ピースメイト含む)を担当させていただきました。

制度教育や事務基礎研修、八戸フィールドワーク等、コロナ前からコロナ禍での職員の育成に携わり、私自身勉強させていただきました。

また、各研修の講師依頼から会場設営まで、各委員をはじめ各法人や院所、事業所の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

なりた みなこ (青森民医連青森事務所
帰任 成田美奈子 ⇒あけぼの薬局妙見店)



看護・介護・医療安全と多岐に渡る委員会の担当をさせて頂く事になりました。委員会活動を通して、県内各地の事業所の取り組みを学び、地域に暮らす患者家族そして職員がハッピーになれるような活動や運動の一翼を担えるよう頑張りたいと思います。

運営に関わるに当たり不慣れな事もありご迷惑をかける事もあるかと思いますが何卒よろしくお願い致します。

たかはし りか (健生黒石診療所
着任 高橋 理華 ⇒青森民医連青森事務所)



【防衛費削減】

- ・「日本の防衛は外交から」を第一に武器は購入しない。憲法9条を遵守し、間違った解釈を正す。
- ・軍拡競争をあおるような防衛費の引き上げを見直し、社会保障に充当します。
- ・最大の目標としては、戦争のない国にする。まず、今の日本は戦争に対して、大きく興味をもっていると思う。このまま行けば、日本は火の海になる可能性があるとは思っている。一人一人の国民の命を守るためにもまず防衛費を削減し、戦争反対の国を目指す。
- ・軍拡競争をあおるような防衛費の引き上げを見直し、社会保障に充当します。

【学費無償化】

- ・子どもが大学生になったが、授業料が高い。皆が進学できる期待をもてるようになってほしい。
- ・大学まで授業料を無料にします。
- ・学びたい人にお金を気にせず学べる環境を!!
- ・高校で終わる子どもたちは少なく、専門学校、大学のほうが授業料など高い。
- ・全ての子どもたちが高校、大学まで行けるよう(任意で)学費を無料にします。
- ・皆、平等に学ぶ機会を。
- ・教育費無償化になれば家計も多少楽になる。



「私が総理大臣になったら、まず何からはじめますか？」多く寄せられた意見

303号(2023年1月号)お年玉プレゼント応募用紙に記載いただいた皆様の「私が総理大臣になったら、まず何からはじめますか？」について多く寄せられた意見をご紹介します。

【少子化対策】

- ・「親ガチャ」と言われる言葉を聞いて悲しくなった。日本はこの先優秀な人材を育てられない国になってしまうという。危機感!! 親の経済力に左右されず、学びを深めて行けるそんな国に未来はある。
- ・不妊治療にかかるすべての費用を保険適用にします。
- ・子どもは国の宝。保育園から大学まで教育・給食料も無償へ。子どもを育てながらも働きやすいように親の就労にあわせて預かりしてくれる子育てセンターを各自治体へ開設。
- ・子は親にとってももちろん宝ですが、社会にとっても未来を担う宝です。保育料無償化、給食費無償化、子ども手当増額をします。
- ・小〜大学生の学費の無料化、子どもたちの夢への協力化、これからの子どもたちを守る育てる。

【その他(主な対策・政策)】

- ・医療費、介護費完全無料(社会保障の充実)
- ・消費税を廃止
- ・賃金アップ
- ・物価高対策
- ・年金受給額倍増
- ・同性婚も異性婚も同じ権利取得
- ・週休3日制導入

ご当選 おめでとうございます!

今回のお年玉には **80通の応募がありました**。ありがとうございます。県連機関紙編集委員による厳正な選考と抽選の結果、以下の22名の皆さんが当選となります。おめでとうございます。

皆さんから送っていただいたご意見・ご要望を、編集委員一同、励みにしながら一層充実した紙面づくりに努めます。

1等 図書カード3,000円 2名 2等 図書カード1,000円 5名

三浦 栄子様(健生病院)
坂本 富久子様(みなみいけの家)

花田 真美様(藤代健生病院) 櫻庭 篤様(あおもり協立病院)
清水 あずさ様(弘前市第一地域包括支援センター) 三上 菜美様(藤代薬局)
杉田 仁志様(あおもり協立病院)

3等 図書カード500円 15名

工藤 千絵様(健生病院) 高杉 由美子様(ナースিংホームたち)
鳴海 由紀子様(藤代健生病院) 長利 知子様(中部クリニック)
三浦 孝子様(健生クリニック) 端村 由貴人様(大野あけぼの薬局)
成田 美穂子様(健生クリニック) 台丸谷 花鈴様(大野あけぼの薬局)
野呂 知美様(健生クリニック) 阿部 雪子様(社会福祉法人虹本部)
對馬 聖子様(津軽医院)
中村 真様(津軽医院)
宮田 和歌子様(健生介護センター虹)
高木 久子様(健生介護センター虹)
小山 知子様(ナースিংホームたち)

※応募いただいた時点で所属部署名で掲載しております。
※県連機関紙編集委員より、今年度中にお届けする予定です。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2023 3月号 380円 **好評発売中**

LGBTQと医療

けんこう教室 わかりやすいうつ病治療

問題だらけ マイナ保険証

造船記 大館町復興の軌跡

まちのチカラ 滋賀県豊郷町

食と健康 痛風にならないために

発行＝新保健康研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

うちの メゴッコ

vol. 71

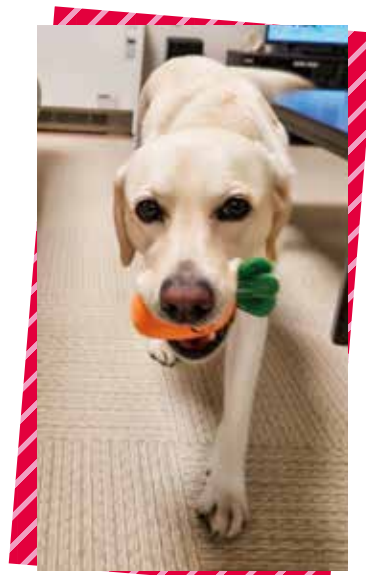
♥ **name** シロ
(ラブラドルレトリバー・女の子)

♥ **age** 5歳



盲導犬として有名な犬種のため、賢く穏やかな性格と思っていましたが、実際は…破壊王の異名を持つほど子犬の頃は物をなんでも壊し、家具は傷だらけ…毎日いたずら三昧で、今でもスリッパやタオルを咥えて持ってきては嬉しそうに駆けまわっています。でも、そんな姿も愛らしく、日々の疲れを一気に吹き飛ばしてくれるうちのメゴッコです。

(中部クリニック 菊池理恵)



私の三つ星★★★★

オススメ

うお
や
魚屋

私が最近、ハマっているお店を紹介します。ホテルアベスト青森（ホテルアラスカ）を海手側に少し進むと魚屋というお店があります！お店の正面は写真を参照下さい。

漢字の通り刺身や魚類が売っているお店で、昨年10月1日にオープンした新しいお店ですが、青森のスーパーではまず売っていない九州の新鮮な魚や県産の新鮮な魚貝類等が豊富にあります。店主の方が仕入れや下処理にもと

ても力を入れているのがよく分かるお店です！

自分自身、料理が好きで魚や貝類もよく捌いて食べますが写真が魚屋さんで購入した魚貝類を炙り、捌いて作った刺し盛です！今まで人生で食べた事のない魚も多く売っておりドブプリはまっています。コバンザメやスギ、ハタ、ニタリクジラ、ロウニンアジ等書き切れないほどの珍しい魚があるので、海鮮が好きな方やお酒のアテにも最高だと思うのでは非行ってみて下さい！毎週月曜日と、木曜日が定休日。営業時間は午前10時～午後8時までとなっています！

(社会福祉法人虹 ショートステイ虹の郷 対馬周也)



刺身



うおや

3月 2023年3月 第56期第11回理事会報告

>> 会長あいさつ

>> 県連出向人事

>> 協議事項

第45期第2回評議員会参加報告

旧優生保護法学習推進体制について

トルコ・シリア大地震緊急募金について

新型コロナウイルス対応について

>> 県連医師委員会関連

>> 各種委員会

各種委員会報告・署名到達

>> 報告事項

全日本民医連通達・声明、地協関係

共闘関係

県連関係

>> 各法人・事業所報告